２０２３年１２月１日・第１８号・国労千葉地本運輸区統合分会機関紙、発行責任者：竜崎好暢、編集責任者：鈴木冨士夫Ａ

# 運輸区 とうごう 第十八号

# 利用者ほったらかしの駅ホーム

## ゴミだらけの線路下

右上の写真は、東京駅京葉地下ホーム２番線と３番線の間の線路下で、少々分かり辛いですが、乗務員室ドア下のごちゃっとしたのが、大小幾つかのゴミであります。２番線ホームで次の列車を待つ場所で、これが見えたら、嫌な気分になるのではないでしょうか。今、何処の駅でも線路内清掃が殆ど行なわれておらず、ゴミだらけです。

きれい事ばかりの宣伝の裏側では・・これがこの会社です。

## 東京駅ホームに駅員がいなくなって・・・

同ホーム（B4）には以前、案内用ではありませんでしたが、駅員も常駐していました。が、今年のダイ改で合理化され、何かあった場合は、２階上の B2 改札口の駅社員がホームまで下りて来ることとなりました。

遺失物扱いの不自由さは日常茶飯事、それ以外の事故などでの駅員要請でも時間がかり、一刻を争う人命絡みの事象が起きたらどうするんだろう・・と、誰もが危惧するところです。

## ふん害、アゲイン！！！

以前にも紹介した大原駅ホームです。一時期、清掃してきれいになりましたが、またまたふんまみれの状態です。特急１０両では、利用者もここを歩きますが・・・。う～～ん。

きったね～！

## うたてつ ノススメ⑬

### 各駅停車　（猫）　１９７４年３月

①あの女（ひと）ともう二度と
　　旅をすることもない
窓に頬あてて　さよならを言った
各駅停車の汽車は今
　　思い出の街を出る
僕の微笑が歪んでいるのは
　　降り出した雨のせいじゃない

②鉄橋が見えてくる
　　あの街が消えていく
あの女の住む街が　黄昏ににじむ
各駅停車の汽車だけが
　　ふり返ることもない
僕の微笑が震えているのは
消えそうな思い出のせいじゃない

③この駅は淋しくて
　　訪れる人もない
なのにただ１人　悲しみのさなか
各駅停車の汽車を降り
　　くちびるかみしめる
僕の微笑が凍りつくのは
　　降り出した雪のせいじゃない

音楽に目覚めた中学２年の時、リアルタイムでシングル盤を買った、自分にとって思い出の１曲。このグループ６枚目のシングルで、この当時（後期）のちに伊勢正三と風を結成する大久保一久がドラムで参加していた。

作詞はこの時代絶頂期の喜多條忠（まこと）、作曲はメンバーの石山恵三。誰にでも書けそうで、絶対誰にも書けない、こういった情景を書かせたら、この人の右に出る者はいないと断言出来る完璧な詞である。①から③までの流れも、それぞれに意味を持たせてあり、時間の経過もさりげなく盛り込んだのはさすがとしか言いようがない。

恋に破れた心を癒す旅は、北に向かうというのが鉄道ソングの定番？だが、ここでははっきり語ってない。が、③で「雨が雪に変わった」という部分で、主人公が（多分）北に向かったのでは？と思わせている。こういう所がすごいんだよね、この人。また、急ぐわけでも、当てがあるわけでもないこの旅は、やはり各駅停車しか考えられない。①で「あの女」と暮らした街を出て、②ではその街が遠ざかり、もう振り返らない決心をし、③で知らない街の駅に１人ポツンと降り立ったが、まだまだ諦めきれるには時間がかかりそうだ。そういった心情と凍りつくような真冬の汽車旅の情景が伝わってくる。

左右に分かれて終始聞こえるトランペットがやたらカッコイイ！ハスキーボイスの歌声も最高。自分にとって一生モンの名曲である。